

第4学年 国語科学習指導案

4年 27名

指導者 山本 千尋

1 単元名 防災パンフレットを作ろう 『もしものときにそなえよう』(光村図書 4年下)

2 単元について

本学級では、自分の思いや考えを書く活動に力を注いできている。今後の課題は、自分の思いや考えを伝えるための理由を明確にしたり、他者と共感したりすることである。その課題を解決することによって他者と自分との思いや考えを深く伝え合うことができるようになる。私は、他者との思いや考えを伝え合い、心が通じ合うことを言葉の教育を通じて育てていきたいと考えている。本単元「防災パンフレットを作ろう」では、友達や保護者の方、地域の方々にもしも自然災害が起こったときにどうすればよいかを知らせるパンフレットを作ることを最終のゴールにしている。

本単元では、子どもたちにとって身近で、近年増えている自然災害への備えを題材としていることから、調べることや伝えることへの必要感や必然性が生まれるという特徴をもった学習活動を展開していく。「災害への備えはどうあるべきか」という子ども自身の問いを解決していく過程で、自然災害によりよく備えるための新しい発見が、「なるほど。だから詳しく伝えたい」と、よりよい書き方で質の高い内容を表現することによって納得して分かる深い学びになっていくよう単元を展開していく。

本単元展開は、災害に対する知識を増やすために様々な文章を読むことが第一歩となる。次に、そこで得た情報をもとに意見や考えをまとめる力、意見や考えを支える理由や具体例との関係を明確にしながら文章に書き表す力を養いたい。その際には、調べた内容をつなぎ合わせて報告するのではなく、調べた内容を自分の主張を支える理由や事例として活用する工夫が求められる。そのため、自分が活用したい情報をメモとして残すことができるような支援を行う。例えば、「使うかもしれない」と思う情報を複数用意できるようにし、その中から問いに深く関わる事柄を比較検討及び取捨選択する場を設ける。

本時の目標達成のためには、収集した情報を ICT 端末に記録しておく。自らもった問いをよりよく解決するために同じテーマを調べている子どもとオクリンクを用いて共有したり、協力して情報の分類、整理を行ったりすることができるよう支援する。また、高まっている相手意識と目的意識をいかして、文章完成までの多様な対話を活発にできるようにするとともに、自らの、あるいは全体の言語活動を繰り返す活動を主体として学習が深まるようにしていく。

3 単元の目標

(1) 活動目標 防災パンフレットを作ろう。

(2) 指導目標と単元の評価規準

指導目標	評価規準	評価の観点
○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができるようにする。	○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	知識・技能 (2) ア
○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができるようにする。	○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	思考・判断・表現 B (1) ウ
○自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にし、学習の見通しをもって調べて考えたことを文章に書こうとする態度を育てる。	○積極的に自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にし、学習の見通しをもって調べて考えたことを文章に書こうとしている。	主体的に学習に取り組む態度

4 単元の構想表

学習活動と子どもの意識（全10時間）	主な指導・支援	評価規準
第一次・・・学習の見通しをもつ。 （1時間） <div>何について書こうかな。</div>	○自然災害への備えについて知りたいこと、考えたいことを引き出し、問いをもつことができるようにする。	○自然災害への備えについての問いをもち、自分の考えが伝わる文章を書こうとしている。 （観察・発言）
第二次・・・文章を書く。 （本時5/8時間） <div>どうすればうまく伝わるかな。</div> <div>どうやってまとめようかな。</div>	○調べたことをもとに伝えたい自分の考えを明確にし、それに対応する理由や事例を考えることができるようにする。 ○作例から見つけた書き方の工夫を意識して、理由や事例が自分の考えの支えとなっているか確かめることができるようにする。	○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 （記述・発言） ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（記述・発言）
第三次・・・読んでもらった感想を共有する。（1時間） <div>ここが上手に書けたよ。</div>	○考えが伝わるか、理由や事例が適切かといった、読み合う際の観点を示す。	○今後の自分の考えを書く場面などを想定し、次にいかしたいことを考えている。（観察・発言）

5 本時の活動

- （1）目 標 ①活動目標 自分が選んだ人に災害への備えがはっきり伝わるような情報を選ぼう。
 ②指導目標 これまでに集めた考えを支える理由や事例との関係を比較検討及び取捨選択し、必要な情報を明確にすることができるようにする。

（2）展 開

学習活動	主な指導・支援	具体的評価規準
1 学習問題を共有する。 自分が選んだ人に災害への備えがはっきり伝わるような情報を選ぼう。	1 前時に使った思考ツールを使い、調べたことを共有することで、問いを解決できるようにする。	○友達とこれまでに集めた情報を正確に共有している。 （発言・観察）
2 伝えたい考えを支える理由や事例との関係を整理する。	2 オクリンクで共同作業をすることで、班の友達が考える理由や事例を共有できるようにする。	○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にしている。 （記述・発言）
3 同じテーマを選んだ班同士で共有する。	3 多くの考えに触れることで、自分の文章に使うことのできる表現の工夫を取り入れられるよう支援する。	○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にし、書き表し方を工夫しようとしている。 （発言・観察）
4 本時の学習をまとめる。	4 次時に文章を書くことを伝える。	

（3）本時の評価

「十分満足できる」と判断される状況	主体的かつ積極的に自分の考えと理由や事例との関係が伝わるように整理して、他の人にわかりやすく伝えようとしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための手立て	オクリンクを使って友達や自分の考えを可視化することで、自分の考えに合ったものを選ぶことができるようにする。

